

めざす児童生徒像

①進んで学ぶ子
→未来の創り手となるために必要な確かな資質・能力を身に付けるために、主体的に学び、考えを伝え合い、学びを深めることができる子。 (学ぶ喜びを知る子 学びを活かす子)
②仲良く助け合う子
→人も自分も大切にできるように、集団づくりを通して、仲間と関わり合いながら、互いのよさを認め合い高め合える子。
③明るく元気な子
→たくましい心身の育成のために、自分の健康や命を大切に、前向きに考え、何事にも根気よくチャレンジする子。

※児童生徒結果-教員結果-保護者結果

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	数値・アンケート結果 (%)			※差	達成状況の分析	改善策
				教員	児童生徒	保護者			
(学校で設定)	学校重点項目 実現 認め合い、高め合う集団の実現 学級活動・児童会活動	児童アンケート③の結果を90%以上にする	① 学級や学校がより良くなるように考えて行動していますか		89		児童アンケートでは、93.2%が肯定的な回答をしていて、目標を達成した。しかし、高学年では、「あてはまる」よりも「やや当てはまる」の回答の割合が高い。日ごろから、学級目標を意識して授業や行事の活動に取り組めるようにする。	・日頃から学級目標の言葉を使って、子ども達の様子を価値づけていく。	
			② 学級みんなで協力して何かをやりとげ、うれしかったことがありますか		95.9				
			③ 学級目標を意識して活動しましたか		93.2				
			集計						
重点項目 石川県共通 業務の改善 働き方や 業務の改善	働き方や業務の改善	教職員アンケートを100%にする	① 80時間越えゼロに向け、時間外勤務の削減に取り組んでいる。	92.9			新たな学年担任や校務分掌を担う職員にとって、業務遂行に時間がかかり、時間外勤務の削減に至らなかった。組織の中では、一人一人が自分の役割を意識して業務を推進できた。	一人一人が業務遂行にやりがいがあるよう、職場内で相談しやすい雰囲気作りを心掛ける。一人で抱え込むことがないように、部会等の時間の設定を行い、部会の中で共有や確認をしながら、業務を進めていく。	
			② 学校組織の中で自分の役割が明確であり、創意工夫しながら取り組むことができている。	100					
			集計						
			集計						
小松市共通重点項目	学校研究	①②の肯定的回答の割合が 中間・・・80% 年度末・・・90%	① 研究主題に迫る目指す授業スタイルを共有し、単元(授業)構想シートなどの具体的な取組を共通実践している。	92.3			今年度から始めた取組であり、①②どちらにおいても全員で意識して取り組むことができた。校内の公開授業に向けての部会や、全体での整理会の時間をとり、学校研究の共通実践を意識している。	1学期の取組から出た課題を基に、2学期の共通実践を決めて取り組んでいく。	
			② 授業研究では、教職員一人一人が子供の姿を語ったり、改善案を示したりするなど主体的に取り組んでいる。	100					
			集計						
			集計						
	指導力の向上	「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善	①④⑤の児童生徒の肯定的回答の割合が、 中間・・・75% 年度末・・・90% ⑦⑧の教師の肯定的回答の割合が 中間・・・75% 年度末・・・90%	① 児童生徒は、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。	84.6	90.4		児童・教師ともに重点としている視点では、目標を達成することができた。しかし、教員の回答では「やや当てはまる」の回答が多く、授業づくりにおける迷いも感じられる。日々の授業づくりについて、教員同士で話し合える環境づくりが必要である。	④の結果について児童と教師で結果の差が大きかった。これはめざす姿の認識が、児童と教員で一致していないことが原因と考えられる。2学期に向けて、教員間でめざす児童の姿を確認し、新学期はじめに予定されている学び集会で、児童と共有していきたい。
				② 児童生徒は、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。	84.6	84.9			
				③ 児童生徒は、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している。	84.6	84.9			
				④ 児童生徒は、話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考え(自分と同じところや違うところ)を受け止めて自分の考えを伝えている。	61.5	87.7			
				⑤ 児童生徒は、振り返る活動の中で、授業の目標に沿って自分の学びの変容を実感したり、学びに対する達成感を得られたりしている。	76.9	87.7			
				⑥ 児童生徒は、コンピュータなどのICT機器を、他の友達と意見を交換したり、調べたりするために使用している。	84.6	69.9			
学力の向上	カリキュラム・マネジメント	①②③の平均が 中間・・・80%以上 年度末・・・90%以上	① 指導計画の作成に当たっては、学校の教育目標の実現に向け、各教科等の教育内容を教科横断的な視点で組み立てている。	92.3			①②③ともに中間の目標指数を達成した。月に一度、カリキュラムマップや学校力向上ロードマップの実践を確認する機会を設けることで、実践の評価、改善を行うことができていくからだと考えられる。	月に一度のカリキュラムマップや学校力向上ロードマップの実践確認の時間を継続する。④については、夏季休業中の小中連携の会の後、情報共有の会を持つ。	
			② 児童生徒や学校、地域の実態を捉えて教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している。	92.3					
			③ 全職員が学力向上の取組の目的や意義を理解し、課題の解決を期待できると納得して共通実践に取り組んでいる。	100.0					
			④ 校区の小・中学校間で学力について情報交換し、課題について共有している。(小中連携)	69.2					
学習方法	①「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫している。」 ②「自分のペースで理解しながら学習を進めるときに、学習用端末を使っている。」 肯定的回答の割合が、 中間・・・75% 年度末・・・90%		① 児童生徒が自分で学ぶ内容や学び方を決めるなど、工夫して取り組めるような活動を行っている。	75	90.5		学ぶ環境が整いつつあり、自分が学びたい方法、場所を選択して学習を進めるようになってきた。児童が見通しをもって取り組めるよう2学期も継続していく。	児童が自分のペースで学ぶことに抵抗なくできるようになってきたが、学習用端末を使っている支援が不十分であった。個別学習を支えるものとして、児童の端末の使用が当たり前になるよう、支援方法を改善する。	
			② 児童生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を活用している。	84.6	68.5				
			集計						
			集計						